

令和3年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

北海道

学校名

北海道釧路明輝高等学校

人権課題

子供

対象学年・
取り扱った教科等

高校2年次・学校設定科目「異文化理解」

目標・人権教育のねらい

- ・ 発展途上国の子供たちが置かれている現状について理解を深める。
- ・ 発展途上国の貧困問題について、体験的なプログラムを通じて学び、自分たち高校生にできることはどのようなことがあるのか考察する。
- ・ 子供の人権について考察することを通じて、持続可能な世界の創り手としての自覚を高める。

実施した内容

- ・ 日本ユニセフ協会とオンラインで結び、発展途上国の子供達が置かれている現状について理解を深める講演を実施した。
- ・ 日本ユニセフ協会札幌支部及び道東支部の方々にも参加していただき、水瓶を運ぶ体験、蚊帳を用いた生活体験などの体験的なプログラムを実施した。

工夫した点

- ・ 日本ユニセフ協会との連携を図り、途上国の子供達が置かれている現状について分かりやすい説明を含め、理解を深められるようなプログラムの準備に当たった。
- ・ 一人一台端末を活用した授業を実践し、オンタイムでのアンケートの実施やチャット機能を活用するなどして、一人一人の疑問や興味・関心に応えられる工夫を行った。
- ・ 日本ユニセフ協会札幌支部及び道東支部の方々に加わっていただくことにより、円滑に体験的な活動を実施することができ、生徒の多くの気づきにつなげることができた。

他教科との
関連

- ・ 総合的な探究の時間において、SDGsの視点からグループ単位で探究活動に取り組んだ。

令和3年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

北海道

学校名

北海道釧路明輝高等学校

人権課題

女性

対象学年・
取り扱った教科等高校1年次・特別活動（ロング
ホームルーム）

目標・人権教育のねらい

- ・男女の身体的性差や多様な性の在り方を理解し、誤った理解や知識から異性を蔑視することなく、尊重する精神を養う。
- ・将来、出産や育児を経験した際に必要となる知識を身に付け、結婚、出産、育児、教育に関わるライフプランに対して適切に役立てられるよう理解を深める。

実施した内容

- ・大学病院の産婦人科医を講師に招いて、高校生ライフデザイン講座を実施した。
講演内容
 - (1) 性に関する正しい知識（性の多様性、男女の性差とライフプラン、避妊等）
 - (2) 相手を理解したコミュニケーション方法
 - (3) ストレスコントロールの方法

工夫した点

- ・釧路市の健康推進課や、地域医療協議会の協力を得ながら、講座の準備を進めることで、本校生徒の実態に合わせた専門的な説明をしていただける講師を招くことができた。
- ・講演終了後、アンケートを実施し、本校生徒の意識や、理解が深まった点をまとめ振り返りの機会を設けることとした。また、その結果を今後の指導につなげられるよう全教職員で共有した。

他教科との
関連

- ・保健体育科「保健」の授業との関連

令和3年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

北海道

学校名

北海道釧路明輝高等学校

人権課題

高齢者

対象学年・
取り扱った教科等

高校2・3年次「生活支援技術」

目標・人権教育のねらい

- ・目や足の不自由な方が日常生活においてどのような困り感を抱いているのか疑似体験を通じて理解する。
- ・疑似体験で理解した高齢者の困り感をどのようにすれば軽減できるのか、社会全体で取り組めることや自分自身で取り組めることはないかなど、自ら考察することにより、よりよい社会の構築に主体的に取り組もうとする意識や自覚を高める。

実施した内容

- ・目や足が不自由な方の困り感を疑似体験できるよう装具を装着した状況で、校舎内で日常生活を想定した体験活動を実施。
- ・体験したことをまとめ、互いに意見交流した。

工夫した点

- ・疑似体験のための装具を準備するとともに、日常生活の様々な場面を想定した体験プログラムを準備した。
- ・体験して感じたことをまとめ、他の生徒と意見交流することにより、多くの気づきを引き出す指導について工夫した。

他教科との
関連

- ・家庭科や福祉科の科目において、目や手が不自由な方々の気持ちに寄り添った対応について理解を深めた。

令和3年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

北海道

学校名

北海道釧路明輝高等学校

人権課題

障害者

対象学年・
取り扱った教科等

高校2・3年次
「生活支援技術」「社会福祉基礎」

目標・人権教育のねらい

- ・「パラスポーツの役割」を学ぶことを通じて、障がいのある方にとってのスポーツの意義やパラスポーツの大会の開催状況について理解を深める。
- ・点字の読み方や打ち方の基礎を習得することにより、視覚障がいのある方々の生活の困難さについて理解する。
- ・障がいのある方々とスポーツとの関わりや日常生活の困難さを理解することにより、他者と関わり、よりよい社会を構築していく自覚を高める。

実施した内容

- ・福祉・生活系列の2・3年次生を対象とした「生活支援技術」の授業で、大学からの講師を招いて「パラスポーツの役割」をテーマに出前授業を実施した。
- ・福祉系列の2年次生を対象とした「社会福祉基礎」の授業で、大学の講師を招いて点字授業を実施した。

工夫した点

- ・大学との講義との連携を図ることにより、通常の授業では学ぶことのできないより専門的な知識の習得につながるのと同時に、自分の進むべき進路について考える機会とした。
- ・点字の読み方や打ち方を学ぶことだけではなく、打ち込まれた点字を読み取ることの困難さを自覚できるよう指導の工夫を行うことで、視覚障がいのある方々の困難さを理解することにつながるよう努めた。

他教科との
関連

- ・家庭科や福祉科の科目において、障がいのある方々の気持ちに寄り添った対応について理解を深めた。

令和3年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

北海道

学校名

北海道釧路明輝高等学校

人権課題

アイヌの人々

対象学年・
取り扱った教科等

高校3年次・学校設定科目「アイヌ学」

目標・人権教育のねらい

- ・アイヌの人々の歴史を学ぶとともに、伝統文化を体験的に学ぶことにより文化を尊重し、引き継いでいくことの大切さを理解する。
- ・国際社会や地域社会の中で、「多文化共生」の意義に気づき、将来の自分自身の生き方や社会との関わり方について考察する。

実施した内容

- ・年間の学習内容を説明し、科目の目標を理解させるためのオリエンテーションを実施した。
- ・地域から外部講師を招き、アイヌの人々の信仰、文学、芸能、歴史について、体験的な活動を交えて学習した。
- ・釧路市博物館を訪問し、学芸員からの説明を受けるとともに、関係する展示品を見学した。
- ・年間の学習成果を踏まえ、人権尊重の観点による探究的な活動を実施した。

工夫した点

- ・トンコリや木彫りに使用する木材を生徒分用意するなど、全ての生徒が実物に触れ体験できるよう工夫した。
- ・多くの外部講師を招き、様々な視点からの講義を受けることで、多面的・多角的に考察できるよう工夫した。
- ・年間の学習成果を踏まえ、人権尊重の視点から探究的な学びとなる機会を設け、本科目のまとめとして位置付けた。

他教科との
関連

- ・地理歴史科及び公民科の科目における学習成果を踏まえた年間の取組

令和3年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

北海道

学校名

北海道釧路明輝高等学校

人権課題

外国人

対象学年・
取り扱った教科等

高校2年次・学校設定科目「異文化理解」ほか

目標・人権教育のねらい

- ・他国の高校生とオンラインで合同授業を実施し、留学生が祖国を紹介するプレゼンテーションの機会を設けることで、各国の事情や文化を比較し、類似点や相違点について理解を深める。
- ・他国の高校生との直接の交流を通じて、コミュニケーション能力を高め、互いの考え方の違いを乗り越え、協働で課題を解消しようとする態度を育成する。

実施した内容

- ・ニュージーランドのウェリントン高校との合同授業を月1回程度実施し、テーマを決めて、プレゼンテーション及びディスカッションを実施した。
- ・アジアの高校生架け橋プロジェクトにより、本校に来校している留学生3名が、自分の国について紹介するプレゼンテーションを1、2年次の生徒対象に行った。

工夫した点

- ・合同授業においては、生徒の交流が円滑に進むよう、生徒1人につき1台端末を準備した。ブレイクアウトルームを活用して、生徒の興味や関心に応じて活発にディスカッションができるよう指導を工夫した。
- ・留学生のプレゼンテーションでは、祖国の写真や動画を多く用いて、文化の違いを分かりやすく伝える資料を作成し、発表した。

他教科との
関連

- ・英語科や国際交流系列に属する学校設定科目との関連

令和3年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

北海道

学校名

北海道釧路明輝高等学校

人権課題

インターネットによる人権侵害

対象学年・
取り扱った教科等高校2年次・特別活動（ホーム
ルーム）

目標・人権教育のねらい

- ・本校において、ほとんどの生徒が、実際にSNSを利用したコミュニケーションを経験していることを踏まえ、コミュニケーションを取る際に陥りやすいトラブルの実例をもとに、情報モラルを理解し、自ら人権を侵す加害者とならない利用方法について理解する。

実施した内容

- ・NTTが製作した動画「スマホ安全教室」を生徒全員が視聴した。
- ・動画を視聴するに当たり、本取組の趣旨を事前に説明した。
- ・振り返りシートの記入を通じて、生徒一人一人が本時を振り返る時間を設けた。

工夫した点

- ・動画を視聴するに当たり、本取組の趣旨を生徒に分かりやすく説明した。
- ・振り返りシートの記入を通じて、気付いたことを整理し、インターネットによる人権侵害を防ぐために必要なことを考える機会を設けた。

他教科との
関連

- ・「情報の科学」等を中心とした情報科との関連